

1. Frame of Reference

これから勉強するのは、せんじつめれば「動詞型、述語動詞、準動詞、等位接続詞、従属節」の5つです。そこで最初に、この最も基本的な概念を使って、英語構文のFrame of Reference (= 判断の枠組み) を構成してみましょう。

英語構文のFrame of Reference

1. 英文は複数の動詞型をつないだものである。
2. 動詞型には述語動詞型と準動詞型がある。
3. 述語動詞型を他の動詞型につなぐときは等位接続詞を使うかまたは従属節にすることによってつなぐ。
4. 準動詞型を他の動詞型につなぐときはそのまま直接つなぐ。

2. 動詞型

「目的語や補語がどのようなパターンで付くか」という角度から動詞を分類した概念を動詞型といいます。動詞型には次の5つのタイプがあります。

動詞型

- ① 目的語も補語も付かずに、単独で用いられる動詞を完全自動詞といいます。完全自動詞は1番の動詞と仮称し、①と書くことにします。
- ② 補語が付いて、V + Cという形で用いられる動詞を不完全自動詞といいます。不完全自動詞は2番の動詞と仮称し、②と書くことにします。
- ③ 目的語が付いて、V + Oという形で用いられる動詞を完全他動詞といいます。完全他動詞は3番の動詞と仮称し、③と書くことにします。

- ④ 目的語が2つ付いて、V + O + Oという形で用いられる動詞を授与動詞といいます。授与動詞は4番の動詞と仮称し、④と書くことにします。
- ⑤ 目的語と補語が付いて、V + O + Cという形で用いられる動詞を不完全他動詞といいます。不完全他動詞は5番の動詞と仮称し、⑤と書くことにします。

3. 前置詞の目的語

前置詞の目的語とは、前置詞と結びついて句を作る名詞を指します。

そこで前置詞の働きを研究してみましょう。

前置詞は名詞と結び付いて、**前置詞+名詞**で形容詞または副詞の働きをします。これを形容詞句、副詞句といいます。この**前置詞+名詞**の名詞を構造上「前置詞の目的語」と呼びます。

たとえば、the book on the desk（机の上の本）の the desk は前置詞 on の目的語であり、on the desk は形容詞句で the book を修飾しています。

また、swim in the river（川で泳ぐ）の the river は前置詞 in の目的語であり、in the river は副詞句で swim を修飾しています。

形容詞句は adjective phrase の略で a と書くことにし、副詞句は adverb phrase の略で ad と書くことにすると、構造は次のようになります。

the book on the desk
n ← a

swim in the river
① ← ad

4. 品詞と働きの関係

1. 動詞の働き

①, ②, ③, ④, ⑤, -③, -④, -⑤

2. 名詞の働き

(1) 名詞の基本的働き

主語, 動詞の目的語, 前置詞の目的語, 補語

(2) 名詞の例外的働き

副詞的目的格, 同格

3. 形容詞の働き

名詞修飾, 補語

4. 副詞の働き

動詞修飾, 形容詞修飾, 他の副詞修飾, 文修飾

5. 主語, 目的語 (動詞の目的語と前置詞の目的語)

⇒ 必ず名詞

6. 補語

⇒ 名詞か形容詞

7. 形容詞

⇒ 名詞修飾か補語

8. 副詞

⇒ 主語, 目的語, 補語にならない

5. 形容詞の働き

形容詞 = 名詞を説明する言葉

形容詞が名詞を説明するやり方には次の2つのタイプがある。

1. 他の言葉の助けを借りずに直接的に説明するやり方

このやり方を「名詞修飾」または「限定用法」という。

2. 動詞の助けを借りて間接的に説明するやり方

このやり方を「補語」または「叙述用法」という。

名詞修飾（限定用法）の例

a beautiful flower

a \curvearrowright n

補語（叙述用法）の例

The flower is beautiful.

S ② aC

6. 動詞の目的語

動詞に直接付いていて、かつSあるいはOとイコールの関係に立たない名詞を「動詞の目的語」という。

- (1) 動詞に直接付いていて、かつSとイコールの関係に立たない名詞
= 第3動詞型の目的語, 第4動詞型の間接目的語

A short walk brought us to the park.
 a → S ③ ← O ad
 walk ≠ us

The police denied him entry to the country.
 S ④ O O ← a
 police ≠ him

- (2) 動詞に直接付いていて、かつOとイコールの関係に立たない名詞
= 第4動詞型の直接目的語

The police denied him entry to the country.
 S ④ O O ← a
 him ≠ entry

7. 補語

補語には次の2つのタイプがある。

1. 動詞に直接付いていて、かつSあるいはOとイコールの関係に立つ名詞を「補語」という。

(1) 動詞に直接付いていて、かつSとイコールの関係に立つ名詞
= 第2動詞型の補語

He fell a victim to his ambition.
S ② nC a

He = victim

(2) 動詞に直接付いていて、かつOとイコールの関係に立つ名詞
= 第5動詞型の補語

His actions declared him an honest man.
S ⑤ O a nC

him = man

2. 動詞の助けを借りて、SあるいはOの状態を説明する形容詞を「補語」という。

(1) 動詞の助けを借りて、Sの状態を説明する形容詞
= 第2動詞型の補語

Natural resources are precious.
a S ② aC

preciousはareの助けを借りてresourcesの状態を説明している。

(2) 動詞の助けを借りて、Oの状態を説明する形容詞
= 第5動詞型の補語

The pain drove her almost mad.
S ⑤ O ad aC

madはdroveの助けを借りてherの状態を説明している。

- 1. A man suddenly appeared round the corner of the street.**
- 2. He fell a victim to his ambition.**
- 3. Natural resources are precious.**
- 4. They felt towards her something near to pity.**